互いの良さを認め合い，協力し合える集団活動の工夫
～聞く力・話す力を高める話し合い活動を通して～

足利市立久野小学校

主題設定の理由

1）はじめに

本校では，「豊かな体験によって培われた感性をもとに自己実現できる児童の育成」を学校課題として，全教育活動を通じて，取り組んでいる。平成１１・１２年度は『同和教育研究学校』として県より指定を受け，研究を進めてきた。同時に，平成１１・１２年に栃小教研足利支部図画工作科指導法研究に取り組み，平成１３年度は栃小教研中央大会でも発表を行った。そして，平成１５・１６年度は特別活動の研究に取り組んできた。

学習指導要領の特別活動のねらいは，「望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに，集団の一員としての自覚を深め，協力してよりよい生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。」ことである。

このねらいを達成するためには，「互いの良さを認め合い，協力し合える集団活動」を行うことが重要である。そして「良さを認め合う」「協力し合える」集団活動を行う上で，基盤となるものは，自分の思いを話したり，友達の考えを聞いたりすることができる力であると考えた。様々な活動を行う上で，お互いに意見を出し合って，皆で考え，より良い活動を創っていくことがある。また，集団活動の中で，友達とのトラブルに際し，自分の気持ちを述べ，人の思いを聞きながら，人との付き合い方や自制心や協調性を学ぶこともある。さらに，多くの友達の意見を聞くことで視野を広げたり，磨き合ったりすることもある。このように集団の中で「人の話を上手に聞くことができる力」「自分の考えや思いを伝えることができる力」は望ましい集団活動を行う上でのとても大切な力と考える。

そこで，児童に「聞く力・話す力」を育てることを通して，互いの良さを認め合い，協力し合える集団活動を達成しようと考え，学級活動の話し合い活動を中心に，授業研究を進めてきた。

2）　今日的課題から

今日，少子化・核家族化といった社会構造の変化やテレビやゲーム機の普及に伴い，子供たちの遊びは急激に変化してきた。一人遊びが増え，人間関係がうまく作れず社会性が不足してきている。また，交通事故や不審者対策等のため，児童の遊びへの制約も多くなり，体験不足も指摘されている。

多文化共生時代と言われる今，思いやりの心を持って，人と人とのかかわり合いを大切にしていくことは，社会性を育て「生きる力」を身に付けることにもつながることである。

そこで，学校においては，特別活動の内容の「学級活動においては，学級を単位として，学級や学校の生活の充実と向上を図り，健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと」をふまえ，友達の話に耳を傾け，自分の考えを発表する話し合い活動を充実させることが重要であると考える。話し合いは，自己主張だけするのではなく，思いやりの心を持って更に良くなるような建設的な話し合いとなるようにしたい。もちろん，話し合いの時だけでなく事前・事後の活動においても，「互いの良さを認め合い，協力し合える集団活動の工夫」は大切なものと考える。

3） 児童の実態

久野小の児童は，明るく素直な児童が多い。どの学年も単学級であり，６年間同じクラスのため人間関係が固定化しやすい面が見られる。入学式・卒業式・学芸会等の行事は，全て全児童参加で実施している。また，縦割り班での登校や，異学年交流清掃やランチルームでの給食などを取り入れているため，他の学年にも友達を作りやすい。

何事にも真面目に取り組む児童が多く，言われたことをきちんとこなすことができる。しかし，従来通りに活動すればよいという考え方が強く，新しい発想が乏しく，本番に弱い面も見られる。授業中の姿勢の悪い児童も多く，人の話を聞いているようで聞いていない児童もいる。また，声が小さくて聞き取れない児童やほとんど発言しない児童もいる。

「聞く・話す力」が弱いということは，全ての教科領域にとって向上の妨げになると考えられる。そこで，全ての活動の基となる基礎基本をレベルアップしていくために，久野小の子供たちにとって，今最も必要なことは何かということを考えた結果，「聞く力・話す力を高める話し合い活動」を通して「互いの良さを認め合い，協力し合える集団活動」を作り上げていけるように育てたいと考え，本主題を設定した。そして，それが思いやりの心や社会性ひいては生きる力を育てることになるであろうと考えた。

2　研究の主題の捉え方

互いの良さを認め合うとは

人には誰にでも，長所と短所がある。短所ばかりを見ていてはよりよい人間関係は築けない。いろいろな個性が集まった学級集団の中で，友達の良さを発見し素直に認め合うことを「互いの良さを認め合う」と考えた。そのためには，いろいろな友達と集団活動を共にすることが大切である。また，教師はそれぞれの児童の良さを引き出すような場の設定も工夫する必要がある。

児童は自分の良さを認めてもらえることにより，学級での存在感を味わい学校生活も楽しくなり，持てる力も十分に発揮する。そして学級集団としての質もより高まってくる。

協力し合える集団活動の工夫とは

より良い学級集団を作るためには，一人一人が学級集団の一員として自覚を持ち，同じ目的に向かって協力し合って活動していくことが必要である。そのために，全クラスとも，児童の考えでクラスの目標を作り，その目標の基に「クラスの歌」を作って歌うことにした。そして，仲間意識を育てた上で誰とでも助け合って活動できるような工夫をしていくことを「協力し合える集団活動の工夫」と考えた。

児童は，自分の好き嫌いにとらわれず，いろいろな友達と協力し合って集団活動をすることにより，社会性が育っていくことであろうと考える。

聞く力・話す力を高めるとは

人と人とがかかわりを持つ上で，重要な力となるのが，「聞く力・話す力」である。児童の発達段階に応じた「聞く力・話す力」を目指す力として，次のように考えた。

《低学年》

理由をつけて自分の意見を言うことができる。

人の話を口を結んで最後まで聞くことができる。

相手の方を見ながら聞くことができる。

《中学年》

自分の意見を分かりやすく言うことができる。

あいづちをうちながら聞くことができる。

自分の考えと比べながら聞くことができる。

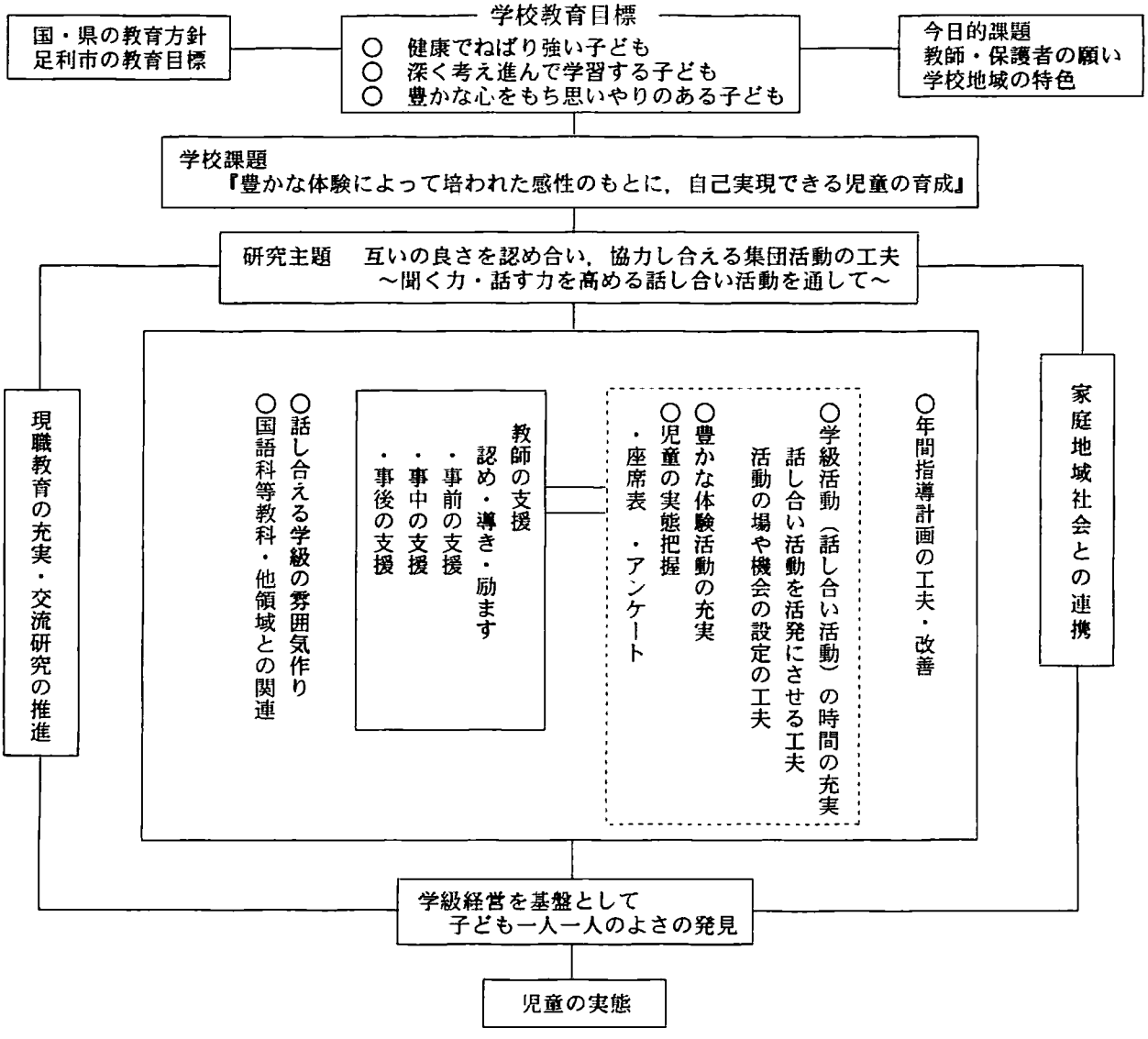
《高学年》

聞き手の反応を見ながら話すことができる。

友達の気持ちを尊重しながら聞くことができる。

話し手の意図をつかみながら聞くことができる。

3　研究推進構想



4　研究の実際

研究主題に迫るために，指導案上，次の二つを重点として取り組んできた。

(1)　話し合い活動を活発にさせる工夫

《事前》

①　議題の取り上げ方の工夫

・　各学級で，学期の計画を立てたり，議題箱を作ったり，係で企画をさせたり等，議題さがしを工夫した。

・　事前に議題を提示することにより，共通理解を図り，関心を高めておいた。

②　学級活動カード

・　前もって，めあてや自分の考えを記入させておき，励ましの朱書きを入れておくことで，発表する意欲を高める。

・　自分のめあてに対して，自分自身の取り組みを評価できるようにしておく。

（自己評価）

《事中》

③　話し合い活動の進め方

・「話し合い活動の進め方」の手引きを持たせることで，なるべく多くの児童に司会を経験させたり，話し合いをスムーズに進めさせることができるようにしてきた。

・　賛成反対（違う）のしるしとして，赤青のおはじき・正の字・○△のカード等を使って，視覚的に児童の意見を把握しやすくしてきた。

・　座席の並べ方を工夫して，お互いの顔を見やすくし話し合いやすくした。

・　高学年は，副議長に座席表を持たせ，全員を話し合い活動に参加させるように，意見の発表回数を記入させた。

《事後》

④　実施計画の再確認をした上で活動を実施し，児童に達成感や満足感を与えてきた。

(2)　活動の場や機会の設定の工夫

①　学級活動コーナー

・　事前に「議題・提案理由・話し合う内容」等を知らせておいた。

②　１分間スピーチ

・　朝の会で１分間スピーチを行い，友達の前で自分の考えを話せるようにさせた。聞いている児童には，感想や質問をするようにさせた。

③　係からのお知らせ

・　帰りの会で「係からのお知らせ」の場を設け，各係の活動を活発化させた。

④　各教科での作品発表会や感想の発表の場の設定

・　各教科で，作品発表会や感想の発表会を多く設定し，自分の考えを発表することに慣れるようにさせた。

⑤　朝や帰りの会の司会

・　朝や帰りの会の進行を日直にさせた。

⑥　係の掲示板

・　高学年は，係の掲示板を使い，この係は何をしたいか，何に困っているか，を分かるようにしておいた。

・　議長団は輪番制とし，話し合いの仕方を学ばせておいた。

・　高学年は，係を中心に事前計画を話し合わせた。

以上のように研究を進めてきた結果，次の二つの点についても，重要なことが分かってきた。

(3)　教師の指導・支援

・　事前・事中・事後の全てにおいての発達段階に応じた支援に心がけてきた。

・　自分の考えを発表できない児童には，そばに行って声をかけて励ました。

・　頑張って発表できた児童を賞賛した。

・　うなずきながら聞くような態度を育てるように心がけてきた。

・　座席表によって児童の考えを把握し，司会の指導や個別支援に生かすようにしてきた。

(4)　学級の雰囲気作り

・　クラスの目標やクラスの歌を作って，クラスのまとまりに心がけてきた。

・　誰もが自分の考えを表せるような人間関係を築ける学級経営に努めてきた。

・　反対意見のときは，「～という意見とは違って」というような言い方をするようにしてきた。

5　実践例 6年「ハッピースクール大作戦」

1　研究テーマとの関連

「互いの良さを認め合い，協力し合える集団活動の工夫」

～聞く力・話す力を高める話し合い活動を通して～

(1)　話し合い活動を活発にさせる工夫

・　「学級活動カード」に前もって考えを書かせておき，励ましの朱書きを入れておく。

・　副議長に座席表を持たせ，全員を話し合い活動に参加させるように，意見の発表回数を記入させる。

・　提案理由を事前に知らせておくことにより，話し合いのねらいを明確にしておく。

・　自分のめあてを持たせることにより，話し合いの中で，自分自身の取り組みを評価できるようにしておく。

(2)　活動の場や機会の設定

・　係の掲示板を使い，今この係は何をしたいか，何に困っているかをわかるようにしておく。

・　次の議題や決まっていること，提案理由を，背面黒板に掲示することにより，次回の話し合いの内容について知らせるようにする。

・　「学級活動カード」に自分の考えを書かせておくようにさせる。

・　「1分間スピーチ」で，自分の考えをはっきり発表させるとともに，聞いている児童には感想や質問をするようにさせている。

・　「係からのお知らせや困っていること」を発表させることにより，各係の活動を活発にさせるよう

にしている。

- 議長書記は輪番制で行い，話し合いの仕方を学ばせる。
- 話し合いをよりよいものにするために係を中心に事前計画を話し合わせる。
- 誰もが自分の意見を話しやすくするために，最後まで話をさせたり，うなずいたり，返事をしたりさせ，話を聞く雰囲気をつくる。
- 各教科でも，他人の意見と自分の意見を比較できるようにさせる。

2　目標

(1)　学校のために，クラスみんなでできることを考えながら話し合うことができる。

(2)　相手の反応を見ながら話したり，友達の気持ちを尊重しながら聞いたりすることができる。

3　題材の展開

(1) 事前の活動と支援

活動の場	活　動　の　内　容	教　師　の　支　援
学級活動	・　２学期の学級活動の計画を立てる。	・　２学期にふさわしい内容を考えさせる。
帰りの会	・　自分自身で何をやりたいかアンケートをとる。	・　一人一人に十分考えさせる。
提案した係との打ち合わせ	・　計画の内容を確認する。	・　めあてを十分に考えさせる。
司会者との打ち合わせ	・　どのようなことを話し合うか相談する。	・　どんなことを話し合うか焦点を絞らせておく。
朝の会	・　議題を知らせる。 ・　学級活動カードに自分の意見を書き込む。 ・　提案した係の意図をつかませる。	・　自分なりの考えを書かせておくようにさせる。

(2)　本時の活動と支援　議題　ハッピースクール大作戦

	活　動　の　内　容	時間	教師の支援と評価（◎）
活動開始	1　はじめの言葉 2　クラスの歌 3　議題の確認 4　提案理由の説明と確認 5　決まっていることの確認	10	・　司会者には，事前に進め方を指導しておく。つまずいた場合は，教師が助言をする。 ・　議題の確認で，本時で，どんな話し合いを行い，自分はどんな考えを持っているか，確認させる。 ・　提案理由と決まっていることを，黒板に板書させておく。
	6　話し合い (1)　どんなことができるか。 (活動場所，内容，準備) (2)　より良い活動にするには，	30	・　話し合うことについては，前もって自分の意見を，学級活動カードに書かせておき，朱書きによって励ましておく。 ・　自分の意見を発表する際には，発表のルールを守り，はっきりと最後まで話すようにさせる。

活動開始	どうしたらよいか。 7　決まったことの確認		・　友達の意見を聞くときには，発表している人の方を見て，聞くようにさせる。 ・　司会者や書記は自分の意見が言いたいときには，一人の司会者が，指名して，意見を言ってもよいこととする。 ◎　友達の気持ちを尊重しながら話を聞き，自分の考えを発表することができたか。 ・　話し合いが終わらない場合は，後日話し合うようにする。 ・　ノート書記にはっきり発表させる。 ◎　クラスのみんなができることを考えることができたか。
	8　本時の活動を振り返る ・学級活動カードへの記入 9　教師の話 10　おわりの言葉	5	・　今日の話し合いでの，自分自身の取り組みについて振り返らせる。 ・　振り返りカードを記入するとき，この時間の自分のねらいについて意識させる。 ・　ねらいにそって話し合いができたか振り返って賞賛する。

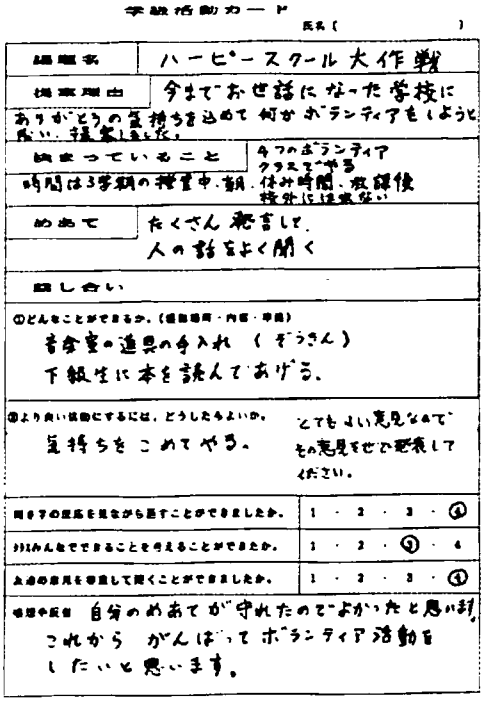
(3)　事後の活動と支援

活動の場	活　動　の　内　容	教　師　の　支　援
昼休み	・　本時までの流れや本時の話し合いの反省会をする。	・　今回の取り組みの反省を，今後の活動に生かすようにする。
学級活動	・　ボランティア活動の計画を立てる。	・　一人一人の意欲がわく計画になるようにする。
朝 昼休み 放課後	・　みんなで計画したボランティア活動を行う。	・　一人一人が充実した活動ができるように，状況に応じた支援をする
帰りの会	・　感想を書く	・　個人の感想を，今後の活動に生かすようにする。

4　実践の様子

〈話し合いの様子〉

〈学級活動カード〉



学級活動カード

氏名（　　）

議題名	ハーピースクール大作戦
提案理由	今までお世話になった学校に ありがとうの気持ち込めて 何かボランティアをしようと 思い、提案しました。
決まっていること	今つのボランティア クラスでやる 時間は3学期の授業中、朝、休み時間、放課後 授業には出ない
めあて	たくさん発言して、 人の話をよく聞く
話し合い	
①どんなことができるか。（場所・内容・手段）	音楽室の道具の手入れ（ぞうきん） 下級生に本を読んであげる。
②より良い活動にするには、どうしたらよいか。	気持ちをこめてやる。 とてもよい意見なので その意見をぜひ発表してください。
聞き手の反応を見ながら話すことができましたか。	1・2・3・④
友だちんなでできることを考えることができたか。	1・2・③・4
友達の意見を尊重して聞くことができましたか。	1・2・3・④
感想や反省	自分のめあてが守れたのでよかったと思います。 これからがんばってボランティア活動をしたいと思います。

5　考察

卒業の時期も近づいてきたため，学校への感謝の気持ちを表そうという気持ちが高まってきた。話し合いにはほとんどの児童が積極的に参加し，全員が発表できた。友達の話も良く聞いて反応していた。話し合った結果「遊具のペンキぬり・体育館の修理とワックスがけ・家庭科室の掃除・理科室の掃除」と決まった。他にも個人でできることはどんどん進めている。

講師の先生から，座席は議長団が黒板と向き合うようにする方がよいことと，板書するときは，項目だけでなく「理由」も書いた方がよいことを指摘され，今後取り入れたいと考えた。

6　研究の成果と今後の課題

(1)　研究の成果

①　《集団として》

話し合いの中で、「友達を思いやる意見」が言えるようになってきて，集団活動が向上してきた。

②　《話し合いへの意欲》

学級活動コーナーを設けたり，「学級活動カード」を使用したりすることにより，意欲を持って話し合いに参加できるようになってきた。

③　《話し合いの進め方》

「議長団を輪番制」にしたり，「話し合いの手引き」を持たせることにより，司会の進め方が上手になった。

「本時で，提案理由（ねらい）を提示」することにより，話し合いの内容がずれてしまった場合に，

ねらいに戻って考え，軌道修正ができるようになってきた。

④ 《聞く力・話す力》

低学年でも「考えた訳」が言えるようになってきた。高学年は思考力・発表力がついてきて，話し合いに深まりが出てきた。

⑤ 《児童理解》

学級活動カードの結果を「座席表」にまとめておいたので，担任が児童の考えを把握しているため，支援しやすくなりました。担任以外もいろいろな児童を知ることができ， 児童への配慮が深まった。

(2) 今後の課題

① 「聞く・話す・姿勢」の指導は，発達段階に応じて，これからも全教科・全領域で指導していきたい。「うなずく・拍手」等の児童の発表に対する意思表示も取り入れていきたい。

② 児童が自分たちから，学級や学校の問題を発見し考えていけるように，いろいろな経験をさせたり，アドバイスをしたりしていく中で育てていきたい。

③ 話し合いには時間がかかる。これから，どこを重点化するか，どこを簡略化するかをさぐっていきたい。

④ これからも「互いの良さを認め合い，協力し合える集団活動の工夫」の研究を続けていきたい。

評

近年、コンピュータや携帯電話の普及等による情報化の進展、少子化に伴う家族形態の変化、また子供の放課後の生活様式の変化による一人遊びの増加など、子供同士の豊かな人間関係を育む機会が少なくなっている状況です。

将来を担う子供たちにとって、社会のルールを守り自分の行動を律したり、友達と協力し助け合ったりして楽しく生活していけるような「社会性」や「人間性」を育成することは、不易であるとともに重要な今日的課題でもあります。

こうした中で、本校では、「聞く力・話す力を高める話し合い活動」を通して、「互いの良さを認め合い、協力し合える集団活動の工夫」を目指し、積極的に研究に取り組んでいます。

まず、子供たちの実態を踏まえて、国語科をはじめとする各教科・領域との関連を図りながら「聞く力・話す力」を高められるように努めています。

こうした素地を育てるとともに、学級活動での議題の取り上げ方を工夫したり、「学級活動カード」や「話し合い活動の進め方の手引き」を活用させたりして、話し合い活動を活発にするための様々な実践をしています。

また、学級活動コーナーを設置したり、議長団に対する事前指導を行ったりして、活動の場や機会を設定することによって、きめ細かな支援をしています。

さらに、日頃から豊かな人間関係を醸成するために、クラスの目標や学級歌を子供たち自身の手で作り上げるようにし、クラスのまとまりに心がけ、その雰囲気づくりに努めています。

今後においても、学級活動や児童会活動などにおいて、子供たちが自分の意見をしっかりもって話し合いに臨み、活発な話し合い活動を通して、互いの良さを認め合い、協力し合えるような実践的態度の育成が図れることを期待いたします。